

海洋プラスチックごみに関する状況

平成31年2月

海洋プラスチックごみ問題の状況

1. 海岸での漂着ごみの事例



山形県酒田市飛島



長崎県対馬市

2. 漂着物の例



漁具



ポリタンク



洗剤容器

3. 懸念される影響

- ・生態系を含めた海洋環境への影響
- ・船舶航行への障害
- ・観光・漁業への影響
- ・沿岸域居住環境への影響

近年、海洋中のマイクロプラスチック（ ）が生態系に及ぼす影響が懸念されている。
サイズが5 mm以下の微細なプラスチックごみ

海洋生物への影響



出典：UN World Oceans Day

鯨の胃から発見された大量のビニール袋



出典：タイ天然資源環境省

マイクロビーズ



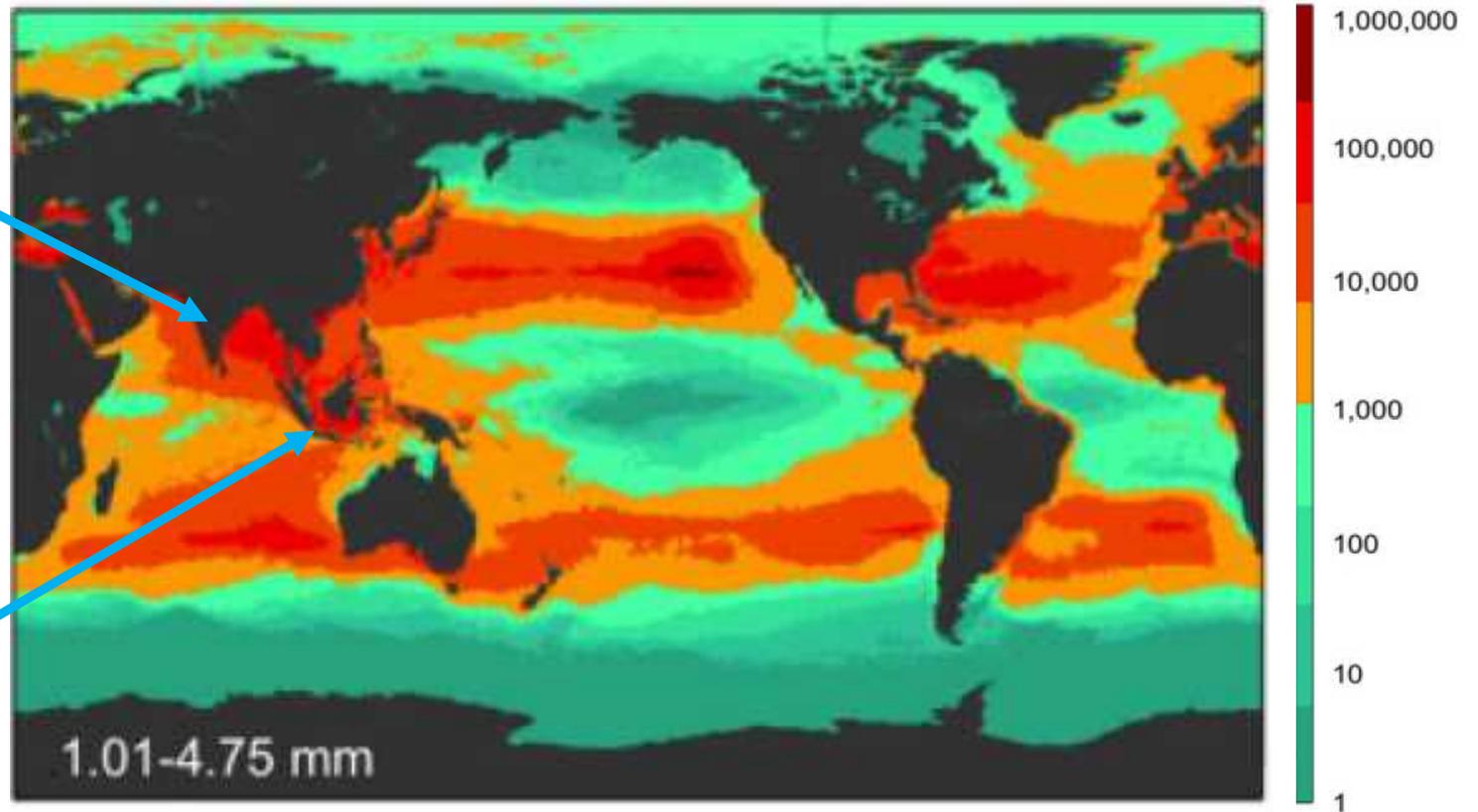
微細なプラスチック片



九州大学 磯辺研究室提供

世界の汚染状況

- プラスチックごみによる汚染は地球規模で広がっている。
- 北極や南極でもプラスチックが観測されたとの報告もある。



マイクロプラスチック(1~4.75mm)の密度分布(モデルによる予測) (個/km²)

(出典) Eriksonら(2014), "Plastic Pollution in the World's Oceans: More than 5 Trillion Plastic Pieces Weighing over 250,000 Tons Afloat at Sea", PLoS One 9 (12), doi:10.1371/journal.pone.0111913

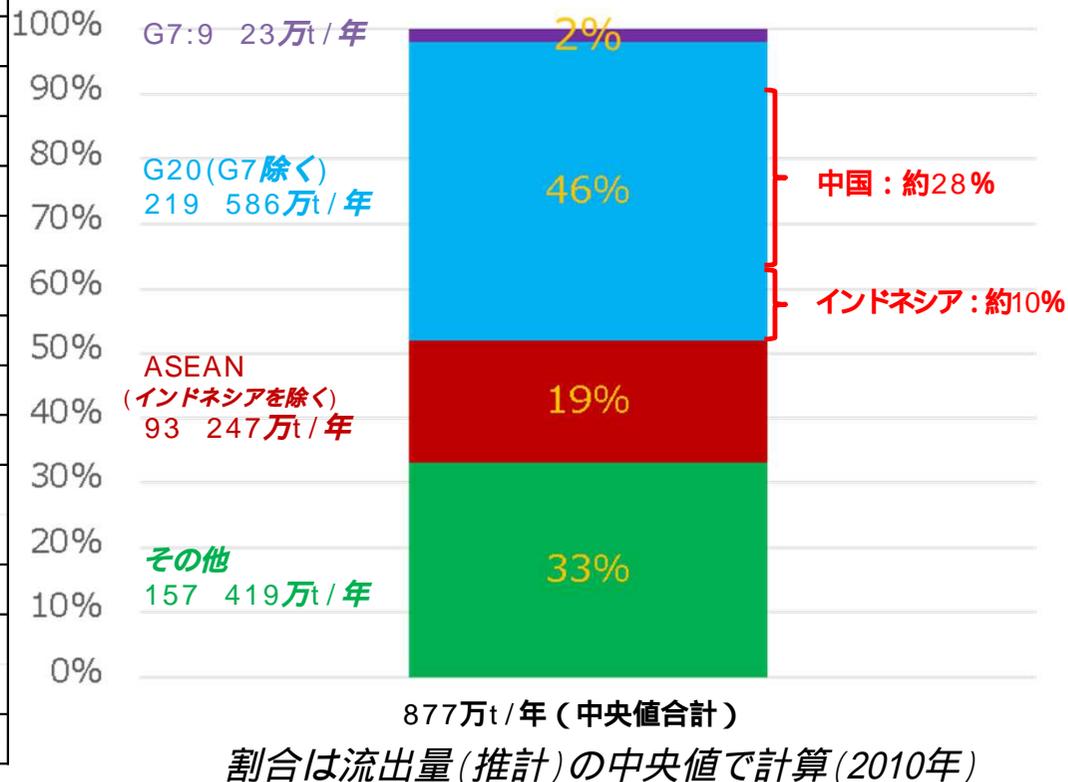
1km²あたり
黄: 1千-1万個、
橙: 1-10万個、
赤: 10-100万個

国別のプラスチックごみ流出量

< 国別流出量 (2010年推計値) >

1位	中国	132 ~ 353万トン / 年
2位	インドネシア	48 ~ 129万トン / 年
3位	フィリピン	28 ~ 75万トン / 年
4位	ベトナム	28 ~ 73万トン / 年
5位	スリランカ	24 ~ 64万トン / 年
6位	タイ	15 ~ 41万トン / 年
7位	エジプト	15 ~ 39万トン / 年
8位	マレーシア	14 ~ 37万トン / 年
9位	ナイジェリア	13 ~ 34万トン / 年
10位	バングラデッシュ	12 ~ 31万トン / 年
	⋮	
20位	アメリカ	4 ~ 11万トン / 年
	⋮	
30位	日本	2 ~ 6万トン / 年
	合計	478 ~ 1275万トン / 年

< 国別流出割合 >

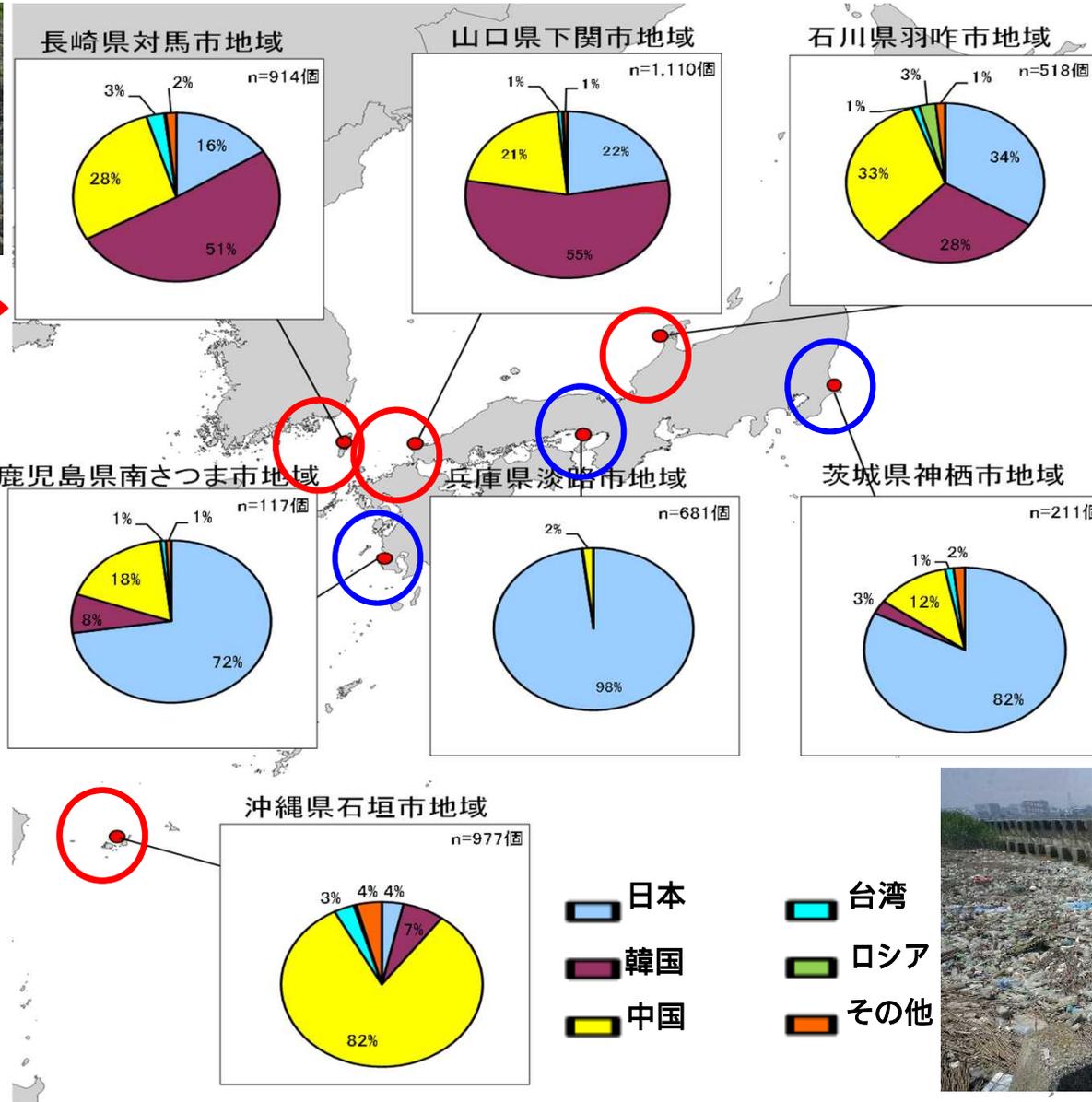


(出典) Jambeckら : Plastic waste inputs from land into the ocean, Science (2015)

中国及び東南アジアからの流出が多いと推計されている。
 一研究者による人口、経済規模等のデータからの推計。温室効果ガスの場合とは異なり、国際合意のある統計は、現状では存在せず、科学的知見の収集が必要。

漂着ペットボトルの製造国 (平成22~26年度調査合計)

- 太平洋側では日本製 (水色部分) のものが多く、東シナ海及び日本海側では中国・韓国製 (黄色・紫部分) のものが多かった。



国内が多い地域

国外が多い地域



国際動向（G7・G20）

<G7エルマウ・サミット（2015年6月）>

- 海洋ごみ、特にプラスチックごみが世界的課題であることを初めて提起。

<G7伊勢志摩サミット（2016年5月）>

3 R等により、海洋ごみに対処することを確認。

<G20ハンブルク・サミット（2017年7月）>

- 「**G20海洋ごみ行動計画**」の立ち上げに合意。
発生抑制、廃棄物管理、調査等の取組項目を列挙。数値目標は含まない。

<G7シャルルボワ・サミット（2018年6月）>

- カナダ及び欧州各国が「**海洋プラスチック憲章**」を承認。

●**安倍総理**から、以下を発言

- 海洋ごみ対策については、とりわけ**プラスチックごみは、海洋の生態系に悪影響を与え得るほか、人の健康にも影響を及ぼしかねない。**
- 一カ国だけの努力、更にはG7や先進国だけの努力で解決できるものではなく、**途上国を含む世界全体の課題として対処する必要がある。**
- プラスチックごみの削減には、伊勢志摩サミットでも推進した**リデュース・リユース・リサイクルの3Rや、廃棄物処理に関する能力の向上等の対策を国際的に広げていくことが不可欠。**
- 日本としても、そのための**環境インフラの導入支援の協力を推進し、来年のG20でもこれらの問題に取り組みたい。**

海洋プラスチックごみ対策に関する総理発言等

2019年1月23日ダボス会議における総理講演

- 「海洋プラスチックごみを減らすために世界中の努力が必要との共通認識をつくり、イノベーションに取り組む」旨表明

【引用】スイスの世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）での基調講演(2019年1月23日)

私は、やはり大阪で、海に流れ込むプラスチックを増やしてはいけない、減らすんだというその決意において、世界中挙げての努力が必要であるという点に共通の認識をつくりたいものだと思っています。経済活動を制約する必要などなく、ここでも求められているのはイノベーションなのです。そのため大阪でジャンプスタートを切って、世界全体の行動へ向かっていきましょう。

今通常国会の総理施政方針演説

- 「新たな汚染を生み出さない世界の実現を目指し、世界の国々と共に、海洋プラスチックごみ対策に取り組む」旨表明

【引用】第百九十八回国会における総理施政方針演説(2019年1月28日)

プラスチックによる海洋汚染が、生態系への大きな脅威となっています。美しい海を次の世代に引き渡していくため、新たな汚染を生み出さない世界の実現を目指し、ごみの適切な回収・処分、海で分解される新素材の開発など、世界の国々と共に、海洋プラスチックごみ対策に取り組んでまいります。

- 今年のG20において、海洋プラスチックごみを減らすための世界中挙げての努力が必要という共通の認識を作るよう取り組むとともに、
- 我が国自身として、新たな汚染を生み出さない世界の実現を目指し、率先して取り組んでいく姿勢を示すことが必要。